



「最低」と言う名の電車

すずき ようこ
鈴木 庸子

●通訳・翻訳家 在イタリア・ナポリ

「イタリアにおける通勤・通学者にとって最低の路線」。科学的な自然環境保護を掲げる非営利団体レーガンビエンテが、昨年行ったこの調査。非効率性、サービスの悪さ、遅さ、運行本数の削減数、混み具合他様々なポイントが総合的に検証された結果、圧倒的なクオリティを見せて栄冠に輝いたのは、チルクムヴェスヴィアーナ（以下ヴェスヴィアーナと略）であった。南イタリア最大都市ナポリを起点に、長さ142キロにわたり、ヴェスヴィオ山を海側と内陸側から挟むような形で伸びているこの鉄道。私は、隣接したナポリやソレントへの往復に、週数回利用している。

19世紀末からの歴史を誇り、1日の利用者数は10万人を超える。ヴェスヴィオ山周辺地域及びソレント半島の100万人弱の住人にとって不可欠な足であるこの電車を、レーガンビエンテ副代表は「正真正銘のイタリアの恥」と吐き捨てた。さもありません、他にもっととんでもないところがあったら空恐ろしいと言うのが、1ユーザーとしての正直な感想だ。

雨漏りのため車内で傘をさしている乗客や、東京や大阪のラッシュ時よりも数段むごい異常な混み具合、無断運休が続き、出発するのか否かの確証もないまま、それでも電車を待たざるを得ない乗客が、駅コンコースにおさまりきれなくなった様子等は、1～2年ほど前はソーシャルネットワ

ークによくアップされていた。あまりの減茶苦茶さに利用者の怒りが爆発、駅員駐在所に椅子が投げ込まれたり、何時間も説明もなしで運休が続いた路線の乗客が、他の辛うじて動いている路線の線路に座り込み、運行を阻んで抗議したこともあった。全国紙の地方版が、そのインターネット版上に、ヴェスヴィアーナをはじめカンパーニア州内の公的交通機関サービスに関する問題告発スペースを開いたのも、この頃である。最近はあまり目につかないが、それは2011～13年の2年間で正規の運行本数をなんと40%以上も削った後、当然の結果として山猫運休の本数が減ったこと以外何ら改善点はないものの、要は日々同じことが繰り返されているだけなので、情報としての目新しさを失ったためである。現在もそのワーストワンの地位は絶対で、他の追隨を許していない。

スタンディング・レビューの名のもとに、ヴェスヴィアーナが近年行ったサービスのカットは半端ではない。先に挙げた運行本数の大幅削減と同時に、主要駅を除く各駅の切符売場の営業時間が大幅に短縮された。私の最寄り駅の場合、始発から終電まで開いていたものが、ウィークディは午前中のみ、週末は終日閉鎖となった。州の公的交通機関は、2012年12月独立法人EAVの下に一括され、その切符は共通となっており、一部のタバコ屋やキオスク、バールでも取り扱っているの



駅で停車するヴェスヴィアーナの車輦



国鉄ローカル線
崩れた屋敷とその真下の鉄路

だが、各々の営業日・時間は、我々が電車を利用する時間と一致するとは限らない。たまに見かける切符の自動販売機も、故障していたり「おつりがありません」表示が出ていたりする 경우가多々あるような状態で、買う気があっても買えない／買う気が萎える。

とはいえ切符売り場が閉まっている間、改札口の扉は開放されているので、切符なしでも問題なくホームにアクセスできる。切符売り場はクローズ、改札口が全開の駅に、切符を確認する係員はいない。車内で時々切符のチェックに回っていた車掌の姿も、ここ2年近くは見かけない。こうして、最近では無賃乗車が公然とまかり通っている。因みにEAVの負債は、約7億5千万ユーロと推定されている。

内閣の頻繁な交代劇では日本に引けをとらない最近のイタリアだが、昨年4月に発足した前レッタ内閣の文化省大臣は着任4日後、このヴェスヴィアーナを使っての電撃お忍びポンペイ遺跡訪問を敢行した。我々利用者に言わせれば、無謀としか形容のしようがない行動だが、とにもかくにも好天に恵まれた祝日(メデー)だったこの日、行楽客に交じって彼が乗ったソレント行き列車は、途中で見事に故障。翌日の全国紙はこぞって、このほぼ無名だった大臣の1日を取り上げたが、例えばこれに1誌がつけたタイトルは「ポンペイ遺

跡：ヴェスヴィアーナ立ち往生 ブライ大臣、相乗りを求めてツイート」。その内容は、ヴェスヴィアーナが巻き起こした新大臣の珍道中の喜劇的顛末に終始し、肝心の遺跡訪問は、刺身のつま程度の扱いに過ぎなかった。

家から徒歩15分圏内に、ヴェスヴィアーナ、国鉄ローカル線、バスの駅／停留所が揃っている私は、ヴェスヴィアーナが少々おかしくなったところと、実はたかを括っていた。ところがこの2月、我が町の300年の歴史を誇る4,000㎡の無人のお屋敷の一部が崩れ落ち、この真下を通る国鉄ローカル線の狭い線路に、がれきの小さな山をつくった。これはすぐ撤去されたが、なぜか崩れた建物にはなんら補修も補強もされておらず、今やむき出しのレンガがいつ落ちてきてもおかしくない状態で、路線は不通のまま今日に至っている。ならばバス、と思いきや、この間乗ったその運転手から、ナポリ市郊外の便を削減する話が進んでいると聞かされた。これと前後して、EAVの財政立て直しを前内閣から任命された特別長官が、ヴェスヴィアーナのさらなる運行本数削減と、いくつかの駅の閉鎖の可能性を示唆した。

こちらで運転免許はとったものの、ペーパードライバーを通してきたつげが回ってきたか・・・。